

ともに仕事 が楽しいよ。





有電社員の1日に密着!

有電で働く社員がどのような1日を送っているのか、皆さんも気になるのではないのでしょうか?この企画では、有電のメインとなる部署である工事部と計画管理部でそれぞれ活躍しているお二人に、1日の流れを伺いました!

工事部 H.Iさん

業務内容

主な仕事内容は、ケーブル布設や配管布設、アンカー打設などです。工事現場に直接赴いて、2~5名体制で1日中作業を行っています。



計画管理部 Y.Kさん

業務内容

会社で作業する日と工事現場を監督する日があります。会社で行う主な業務は、見積書の作成や工事材料とリース品の手配です。現場に出る日は、職人の作業を管理し、配線調査を行います。



5:00 起床



8:00 現場到着

危険予知箇所を書き、朝礼を行います。

8:30 作業開始

10時から30分間の小休憩を挟み、また作業に入ります。

12:00 お昼休憩

自分で作ってきたお弁当を食べます。

13:00 作業開始

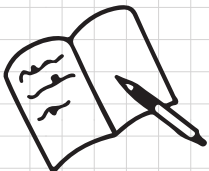
15時から再び30分間の小休憩をして、作業に戻ります。

18:00 業務終了

現場作業を終え、会社に戻ります。明日必要な道具や工具、材料などを車・トラックに積み込んで業務終了です。

18:05 会社から帰宅

会社近くの寮に住んでいるため、徒歩5分で帰宅します。帰宅後は夜ご飯を作り、明日の弁当の準備や洗濯などをしてお風呂に入ります。そのあとは、映画を見たり、漫画を読んだりして過ごしています。また、電気工事士2種の試験が近いので勉強をしています。



6:00 起床

シャワーを浴びると、頭と体がスッキリするので、仕事前の朝風呂は欠かせません。

7:00 出社

一度会社に寄って、必要な資料を取ってから社車で現場へ向かいます。

8:00 現場到着

朝礼で話す内容を書きまとめて、準備します。

8:30 現場朝礼

当日の作業内容とスケジュール、気をつけてほしいポイントを職人たちに伝えます。

8:45 作業開始

まず行うのは現場の安全対策です。標識を貼ったり、危険箇所にカラーコーンで区画したりして、無事故で安全な現場を保ちます。

12:00 お昼休憩

コンビニでお昼ごはんを買って食べています。よく食べるのは、カップラーメンです。

13:00 作業再開

午前中終わらなかった、配線の調査の続きを行います。また、工事が設計通りにいかないこともあるので、図面や施工図の修正をすることも。変更があれば、それに合わせて書き直します。

15:00 午後のミーティング

翌日以降の作業内容をまとめたものを書き起こします。そして、職人と一緒にその作業内容と今後のスケジュールなど打ち合わせします。

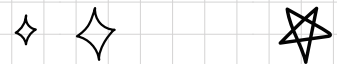
17:30 作業終了

会社に戻ります。

18:30 会社到着

翌日の作業に必要なものを準備します。

19:00 退社



19:30 帰宅

帰宅後は、You Tubeを観て過ごします。特に東海オンエアはお気に入りです。企画が面白いので、ぜひ皆さんも見てみてください。

数字

で見る

有電



昭和37年4月

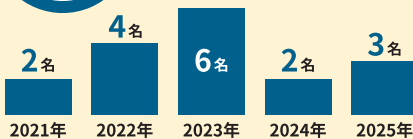
現会長が個人創業を開始してから64年

従業員数

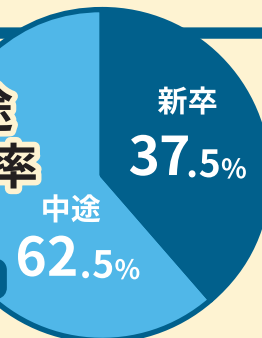
32名



近5年間の採用人数

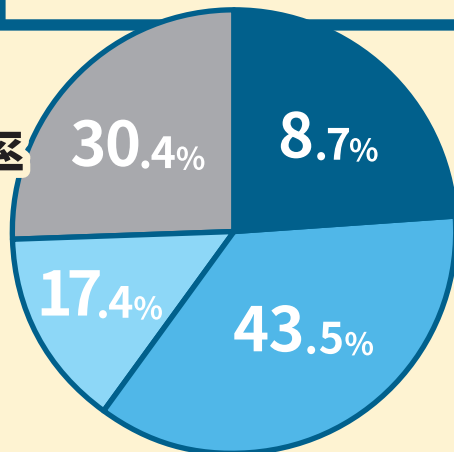


卒・中途入社比率



給取得率

- 5~9日取得者
- 10日以上取得者
- 15日以上取得者
- 20日以上取得者



平均残業時間

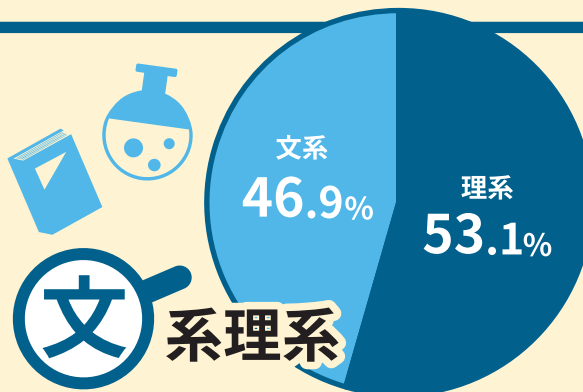
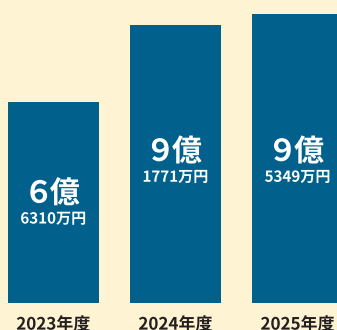
平均10.6時間/月

- 工事部 7.7時間 24.3%
- 計画管理部 14.5時間 45.7%
- 総務部 9.5時間 30.0%



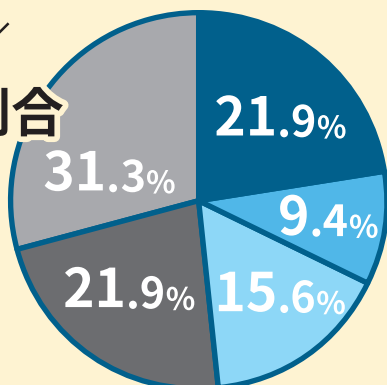
年間売り上げ

2023年度 6億6310万円
 2024年度 9億1771万円
 2025年度 9億5349万円



平均年齢/年代別割合

- ~20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代~



年勤続表彰制度

- 定年退職功労者 6名
- 20年表彰受賞者 6名
- 10年表彰受賞者 7名
- 5年表彰受賞者 7名

平均勤続年数

14年

資格奨励制度

第一種電気工事士、
第二種電気工事士

2023年
受験社員
合格率

100%

新人研修の
中で練習が
できます!

出身地

- 愛知県 78.1%
- 岐阜県 3.1%
- 静岡県 3.1%
- 石川県 6.3%
- 大阪府 3.1%
- 熊本県 3.1%
- 鹿児島県 3.1%

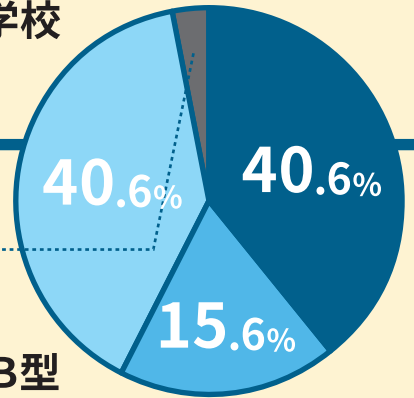
新卒入社社員の 出身高校(高卒者のみ)

- 春日井工科高校(春日井工業)
- 愛知工業高校
- 豊橋情報ビジネス専門学校
- 美濃加茂高校

血液型

- A型
- B型
- O型
- AB型

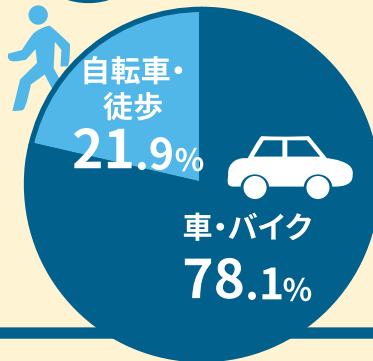
3.1%



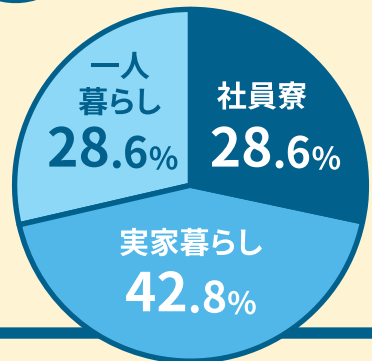
先輩社員の学生 時代の部活動

- ハンドボール部
- ボート部
- バスケット部
- 自然科学部
- 軟式・硬式テニス部
- バドミントン部
- 弓道部 など

通勤手段



アンダー30歳 社員の住まい



\\たくさんのご回答をいただきました!\\

楽しかった仕事 仲間との思い出

社員旅行に
行ったこと!

一緒に
ゲームをした!

同じ趣味の話をして
いるとき!

社長の年齢 46歳

4年目社員の挑戦！ 現場での実績

紹介

お客様から高い満足度を得た2つの工事をクローズアップ！

OさんとKさんは、どのような工程を経て成功を収めたのでしょうか。その経験を共有します。



今回ご紹介する現場は.....

東海精機(株)磐田工場 77kV受変電設備 2バンク増設に伴う土木基礎埋設工事

既存の受変電設備に2バンクを増設する工事。
規模が大きかったため、工期は約半年と長期の設定となりました。



計画管理部 工事管理課

M.Oさん

01 現場の苦労と乗り越えた方法

現場の段取りや予定の調整は先輩に相談

規模が大きく工期の長い現場だったため、作業員の工程管理や段取り、予定の調整が非常に大変でした。そこで、先輩に相談しながらアドバイスをもらい、1人では解決できないことも乗り越えることができました。忙しい中でも先輩方はアドバイスをくれ、豊富な現場経験を活かしたサポートをしてくれるため、困ったときは迷わず周りを頼ることが大切だと実感しました。

もともとあった受変電設備を傷つけないよう注意

既存の設備を傷つけないよう、細心の注意を払いながら作業を進める必要があり、作業者同士の連携や段取りが非常に重要でした。

工事が順調に進むよう排水設備を設置

基礎工事の際は地面を掘るため、雨が降ると水が溜まってしまい、工事がストップする恐れがありました。そこでポンプなどの排水設備を設置し、水が溜まらないよう工夫。予定通り工事を進めるために、私も排水機器の取り付けやポンプの稼働などを手伝いました。

02 今回の現場から得られた学びや新たな発見

特に規模が大きく工期も長い工事では1人だけで無理に進めようとせず、周囲の先輩や仲間に知恵を借りることが大切だと感じました。

03 その学びを今後の現場にどのように活かしていこうと思うか

わからないことは積極的に先輩に聞いて理解を深め、今後は後輩をサポートできる立場になりたいと思います。

実際に元請企業様からも
お褒めの言葉をいただいています！

約5か月という長期現場でしたが、無事、無事故・品質トラブル0で終えることができました。ご協力いただき、ありがとうございました。次回の名誘もよろしく願いいたします。

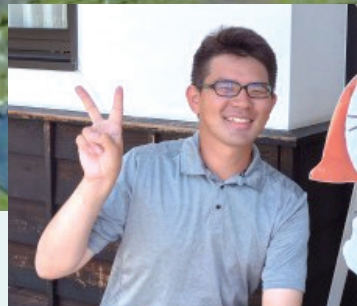
顧客満足度調査で
満点の30点を
いただきました！



今回ご紹介する現場は.....

愛三工業(株)安城工場 エコプラント新築工事

管理業務を中心に担当し、元請け業者とコミュニケーションを図りながら下請け業者に工程を伝える役割を担いました。さらに、材料の注文や資材の準備を行うほか、作業員としての業務も兼任していました。



計画管理部 通信課
教育係

S.Kさん

01 現場の苦勞と乗り越えた方法

初の大規模新築現場を経験、 他業者との調整に苦戦

担当していた外回りは土木や配管など他業者が絡むため、作業範囲や配管の位置、深さなどをすり合わせる必要がありました。その結果、規模の大きさゆえに考えるべきことが多く、初めての経験ということもあり、苦勞も大きいものでした。しかし、協力会社には

ベテランの方が多く、当社のメンバーも含めてわからないことは積極的に質問しながら、知識を補い現場を進めることができました。自分自身、監督とはいえ完璧な知識があるわけではないため、周囲への相談や連携が最大の助けとなりました。

02 今回の現場から得られた学びや新たな発見

段取りの重要性

必要な資材や工具が準備できていないと作業が止まったり、取りに行く手間で進捗が遅れたりすることがあります。管理する立場としては、工程とあわせて資材や工具をしっかりと把握し、必要なものを事前にそろえておくことが何よりも大切だと感じました。

作業を円滑に進めるためには 「コミュニケーション」が重要

事前の会議や計画があっても、実際には作業が重なる部分が出てくるため、当日の進捗や状況を踏まえた予定のすり合わせが欠かせません。わからないところや変更点を放置すると後々トラブルに発展する可能性が高いため、現場での情報共有や「調整役」の存在が大きな鍵を握ります。

新しい知識を身につけた

光ケーブルやLANケーブルといった弱電分野を担当している立場でありながら、今回は穴を掘って配管を通す作業やモルタルを使う作業など、工事の7割以上が土木作業という珍しい経験をしました。新築現場での土木的な作業工程をほぼゼロから学ぶことになり、一連のフローや必要な知識を身につけられました。

03 その学びを今後の現場に どのように活かしていこうと思うか

これまで弱電中心に取り組んできた経験に加え、土木の知識や作業フローを理解することで、より幅広く対応可能になり、現場での作業効率や品質も向上できると感じています。

実際に元請企業様からも お褒めの言葉をいただいています！

今回職長さんの経験年数が浅かったため、施工手順を説明しても理解してもらえず、段取りが上手くいかないこともありました。現場から戻ってきた若手社員に、次の日の作業内容などを社内で確認してもらいフォローしていただくと助かります。また、月に1回以上現場パトロールを実施し、現場管理をしていただきたいです。材料などは整理整頓ができており、材料が放置されたままなどがなかったので、現場を綺麗に保つことができました。ありがとうございました。引き続きよろしく願いいたします。

教えて、Kさん!! 四方良しの仕事とは?

約50年の業界経験を得た今、現場の若手社員の悩みに自身の経験を通して、業界ベテランのKさんが応えます。その印象深い体験談を通じて、「良い仕事」のためのヒントを探ってみてください。



工事管理課

M.Kさん

現場監督者として心がけたいこと

まずはお客様の要望を正しく理解する!

仕事は1人でするものではなく、相手とのキャッチボールのようなものだと思います。まずは相手の話をよく聞き、「こういうことで良いでしょうか」と反復して確認しましょう。「いつまでに」「何が」必要かを確認することで、認識のズレを防げます。

その前提となるのは、図面や仕様書の正しい理解です。私が24歳の頃、あるお客様から「君は会社の代表として現場に来ている。質問にはきちんと調べてから回答してほしい」と諭された経験があります。その後、懸命に調べては回答を繰り返すことで信頼を築き、自身の成長も実感できました。

今はスマートフォンで何でも検索できますが、それに頼りすぎないように工夫してみるのも大切です。ときには紙を使って文章に書き出すと、知識が定着して自分の言葉で内容を説明できるようになります。

「良い仕事」のための四方への思いやり

有電が掲げる「良い仕事をしよう」という方針を、4つの視点で考えてみましょう。

元請け 会社 に対して

納期厳守や迅速な報告はもちろん、より深掘りした提案ができると、信頼に繋がるのではないのでしょうか。「ここはこうしませんか?」と、元請けさんも気が付かないような点を補えれば、仕事の質が高まります。

会社 に対して

企業にとっての「良い仕事」とは、お客様の喜びと利益の両方を叶えることです。成果物にご満足いただき、「次の現場も同じ担当者で」と指名をいただくことが、一番嬉しいことではないのでしょうか。

作業 者 に 対 して

現場では「手戻り」「手直し」「手すき(作業の中断)」をなくす意識が大切です。目安として、1週間単位の予定を打ち合わせてスムーズな段取りを組みましょう。

「手直し」は、仕様や法令に合致しない方法を取ったときに発生します。電気工事には覚える要素が多く、法令も複雑ですが、適宜メモを活用して「手戻り」を防ぎましょう。

自分 自身 に 対 して

50年ほど前のことです。工業高校を卒業後、18歳で図面トレースの仕事に就いた私は、経験不足からミスが絶えず、悶々とした日々を送っていました。転職になったのは、電気系の国家資格への挑戦です。「落ちたら会社を辞めよう」という覚悟で猛勉強した結果、1年後に合格通知を得ました。逆境に身を置いて知識を深めたことで、実務のやりがいも面白みも増したように思います。これからの有電を担う皆さんにとって、この経験談が少しでもお役に立てれば幸いです。

指導者として意識していること

何でも聞ける雰囲気づくり!

年次の浅い方は、「何を質問していいかわからない」のが本音かもしれません。私が心がけているのは、小さな声かけです。現場から疲れて帰ってきたら、「お疲れ様。今日はどうだった?」と言葉をかけ、何か返してくれたら「そっかそっか」と受け止めます。教える側も教わる側も人間です。相手の個性に合わせて、互いに話しやすい雰囲気をつくるのが、成長への第一歩ではないのでしょうか。

＼新卒入社の皆さんにぶつちやけ話を伺いました！／

有電に入社後、ぶつかった壁を教えてください！



誰しもが経験する、仕事で直面する「壁」。

それぞれ異なる壁にぶつかりながらも、そのたびに「乗り越える力」を身につけてきました。

新卒社員2名が語る、成長の道のり、そして日々のモチベーションの原点とは？

皆さんが入社したらどのような経験が待っているのか。実態がわかります！

入社3年目

H.Nさん

01 入社後最初の壁 研修と現場のギャップ

研修を終えて初めて現場に出た当初は、かなり戸惑いました。先輩方が忙しく働く中、自分だけ何をすべきかわからず、立ち尽くすこともあったほど。研修と現場の実務はやはり違い、「どうしよう」と焦るばかりでした。この状況を打破するため、勇気を出して自分から声をかけるよう意識しました。忙しい先輩に声をかけるのは勇気がいりましたが、「何をすればいいですか？」と思い切って尋ねると、丁寧に教えてくれました。この経験を通し、「黙っていても教えてもらえない。自ら聞きに行く姿勢が大切だ」と学びました。

02 今までで一番の壁 事前準備の重要性

工事監督として常に重要だと感じているのが、「事前準備」。段取りができていれば工事はスムーズに進むところ、1つでも抜けがあると現場で慌てることになります。以前、現場に必要な10個の荷物のうち、たった1つだけ忘れてしまったことがありました。幸い上司の車に同じ工具があり事なきを得たものの、自身の準備不足を痛感したアクシデントでした。

この反省から、今では必要なものをすべて書き出し、準備のできたものから一つひとつチェックで消す方法を徹底。荷物に限らず、人の手配や現場ルールの確認といった段取り全体を「見える化」し、つまづきを未然に防ぐよう努めています。



そんな私のモチベーションは「仕事の達成感」

様々な壁を乗り越えながら頑張れるモチベーションの原点は、仕事で得られる「達成感」です。ケーブルを通し機器をつなぎ、試験を経て無事に稼働した瞬間は、大きな手応えを感じます。完遂した実感が次への活力となり、意欲も湧いてきます。最近はプライベートで引越ashiを考えており、それも良い目標になっています。仕事の達成感を大切に、これからも前向きに取り組んでいきます！



そんな私のモチベーションは

「プライベートを大事にすること」

絵を描く道具や大好きなアニメのグッズを集めるために、仕事を頑張っています。充実したプライベートの時間を守ることが、日々の仕事への活力になっています。

入社3年目

K.Tさん

01 入社後最初の壁

他業者との間にあった「見えない壁」

電気工事は他業者の方々と協力して進めるため、最初の壁は現場でのコミュニケーションでした。自分から休憩時間などに話しかけて関係を深めることで、作業中の連携を取りやすくすることを意識しました。これを続けていくうちに、ベテランの方から「これはこうだよ」と、作業中に直接教えていただけるようになり、自分のスキルアップに繋がったのは大きな収穫です。

02 今までで一番の壁

自分のことを知ってもらうために

一番の壁は、実は社内の方々に自分の名前を覚えてもらうことでした。積極的に話しかけてアピールするだけでなく、過去の恥ずかしい経験談など、プライベートな話でクスッと笑ってもらうことで、自分をさらけ出して距離を縮めていきました。地道なアピールを続けた結果、少しずつ仕事を任せられるようになったと感じています。

＼中堅社員の皆さんにも聞きました！／

有電に入社後、ぶつかった壁を教えてください！



前ページで若手の皆さんに伺ったこの企画。今回は中堅層の皆さんから見た、ここまでの仕事の苦悩や自身のモチベーションについてを語っていただきました。

有電社員のリアルを覗いてみましょう。

入社14年目

T.Iさん

01 これまでの一番の壁とその乗り越え方

「初めて」の重圧。支えてくれたのは、必ず助けてくれる先輩の存在

どの現場も一つひとつ状況が違うため、常に真剣勝負です。そんな中でも特に大変だと感じたのは、初めて現場を任せられたときです。覚えるべきことや準備が一気に増え、当時は必死でした。そのとき、支えになったのが先輩たちの存在。困ったときに必ず手伝ってくれました。

02 仕事のやりがい

責任を果たし、無事に現場を終える、その瞬間のために。

「やりがい」という言葉で表現するのは少し違うかもしれません。それよりも、一つの現場が無事に完了したときに抱く大きな安堵感と達成感が大きいと思います。責任があるからこそ、トラブルなく終えられたときには心からホッとします。

そんな私のモチベーションは

プロとしての「対価」。

任された役割を全うし、それが日々の糧となる。

働く上での原動力は、やはり仕事に対する対価です。任された役割を、責任をもって果たし、それが生活の糧となる。これが日々のモチベーションになっています。



入社14年目

Y.Mさん

01 入社以来、最大の壁とその乗り越え方

慣れた頃に起こる「結線ミス」

一番多いトラブルは「結線の間違い」です。電気の「バン（配電盤など）」にケーブルを繋ぐ作業で、特に一人で任せられるようになった頃にミスが起こりがちでした。例えば「多芯ケーブル」。中に何十本も線があり、稀に番号順が逆のことも。思い込みで進めるとミスになります。作業後のセルフチェックを徹底することで気づくことができ、事なきを得ました。

02 仕事のやりがい

危険な現場で「問題を起こさない」意識

正直に言うと「給料が増えること」です。仕事は電柱作業や感電など常に命の危険と隣合わせ。水処理（浄水場）の現場も多く、「何も問題を起こさない」ことを強く意識しています。人の飲み水になる場所で、工具などを落とせば大変な損害に。無事に作業を終えることに集中しています。

そんな私のモチベーションは → **生活を支える「対価」がモチベーション**

やはり「対価」、つまり給料がもらえるからというのが一番です。給料アップに繋がるため、資格も取得しました。生活を支えるための対価が、私のモチベーションです。

入社14年目

Y.Kさん

01 これまでの一番の壁とその乗り越え方

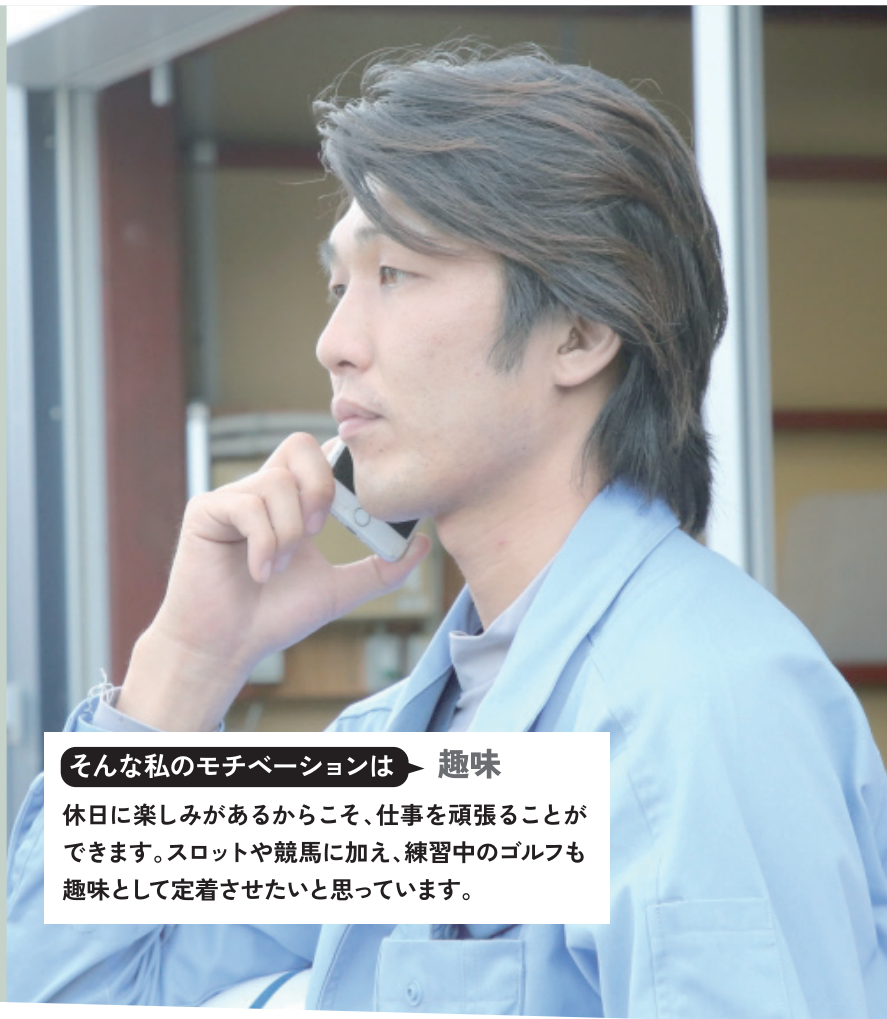
「話しかけにくい」壁を溶かした、人の温かさ

一番の壁は、元請けの方たちとのコミュニケーションです。今の部署は主に一人行動で、入社3か月頃には一人で対応する必要がありました。知識も経験もなく、社外の方に話しかけにくい状況で工期が遅れたことも……。乗り越えられたのは、人柄の良い元請け担当者との出会い、話しかけていただいたおかげです。人に恵まれたと思います。

02 仕事のやりがい

経験を積んで得た「時間の段取り」

仕事を覚えてきた今、自分の裁量で時間の段取りを組めることにやりがいを感じています。複数の現場を掛け持ちする際「今日はこの仕事」「今週はあの現場」と、自分でタイムスケジュールを決められるようになりました。若手の頃は、教えてもらう立場。元請けの指示通りに動くしかできませんでした。しかし今は、指示を受けながらも「自分のやり方」で仕事を進められる部分が増え、ストレスなく仕事できています。



そんな私のモチベーションは ▶ 趣味

休日に楽しみがあるからこそ、仕事を頑張ることができます。スロットや競馬に加え、練習中のゴルフも趣味として定着させたいと思っています。



入社7年目

H.Iさん

01 これまでの一番の壁とその乗り越え方

上司・先輩の指導や研修を通じて、知識ゼロを克服

私は高校が普通科出身だったため、電気工事の現場に関する知識は全くありませんでした。入社後は工具の使い方や材料の名前を覚えるのに苦労し、これが最大の壁に。この壁を乗り越えるため、わからないことは上司や先輩に質問し、社内研修では積極的にメモを取って復習や練習を重ねました。仕事のあとも、練習やカタログ読みを続けた結果、入社3～4年目に電気工事士の資格を取得した頃、ようやく電気のことを理解できたと感じました。

02 仕事のやりがい

教えることは、自分の成長に繋がる

現在、若い後輩が入社し、自分が指導する立場になったことにやりがいを感じています。現場では上長のサブとして、指示を後輩たちに伝え、現場を円滑に動かす役割を担っています。指導する際には、優しく、専門用語を避け、簡単な言葉で説明するように心がけています。教えることは、同時に自身の成長にも繋がっていると確信しています。

そんな私のモチベーションは ▶ 仕事の達成感が次の活力を生む

何もない状態から一つずつ作業を進め、完成へと導くプロセスの中で、綺麗に仕上がったときや、完成したときの達成感が、私にとって大きなモチベーションとなっています。そのほか、休日は銭湯やサウナ、好きな日本酒を楽しむために居酒屋へ行くなどしてリフレッシュしています。これにより、「また1週間頑張ろう」という気持ちで仕事に臨むことができます。

設立 45 年の あゆみ

いかにして今の有電があるのか、創業からの長い道のりを一緒にたどってみましょう。これまで続けてきた「あゆみ」は、この先の未来へとたゆまず続けていきます。その一步一步のあゆみ、有電のさらなる発展には、

昭和 **37** 年4月

現会長「有村明信」が個人創業開始
当時の従業員数は3名。土木作業や溶接工
など、専門外のことにも果敢に挑戦。



有村現会長の
昔の写真

昭和 **56** 年4月

(有)有村電気工事会社を設立
個人創業開始時代の
3名で再スタート。



会長が創立当時携わった案件

平成 **02** 年4月

現相談役「西川勉」が(株)サンクス電業を設立
従業員は営業社員3名のみ。

平成 **15** 年6月

(株)サンクス電業と業務統合し、(有)有電と改名発足
当時サンクス電業社長の西川相談役から「一緒にやりませんか？」との誘いが。かねてからの信頼関係もあり、業務統合。

平成 **16** 年8月

(株)有電を設立 工事施工技術力と現場監督者の技術力
を評価され、さらなる発展を目指し設立。大型工事会社の
組織、機能、高度な技術を習得し、急成長を遂げる。

平成 **20** 年7月

さらなる発展を目指して
上下水道プラント・電力プラント・一般工業プラント工事と
いった大型工事が多く、工事設計のCADなどのOA化を推進。

平成 **22** 年9月

本社を新築・移転(北名古屋市 熊之庄)

平成 **23** 年

7年間で建設業許可を2業種の追加&一般建設業から
特定建設業へ変更! 電気通信工事業を追加

平成 **25** 年

- 5年間で9か所の発電所を設置
- 第1弾 本社発電所(平成25年12月)
 - 第2弾 瑞浪発電所(平成26年8月)
 - 第3弾 土岐発電所(平成28年7月)
 - 第4弾 瑞浪第2発電所(平成28年7月)
 - 第5弾 内津発電所(平成28年11月)
 - 第6弾 一色発電所(平成29年9月)
 - 第7弾 可児発電所(平成29年10月)
 - 第8弾 車庫発電所(平成29年11月)
 - 第9弾 田原発電所(平成30年10月)

平成 **26** 年

とび土木工事業を追加

平成 **27** 年12月

新社長就任
代表取締役社長「有村明信」が取締役会長に、
取締役「有村朋泰」が代表取締役社長に就任

平成 **30** 年4月

社内研修制度スタート
個々の成長速度に
合わせた指導を実施



令和 **元** 年

電気工事業を
一般から特定へ



令和 **03** 年

設立40周年
北名古屋市社会福祉協議会と災害時ボランティア
センター運営に係る資機材提供協定を締結
40周年記念の記念品としてボールペンを作成。社内報や、全員
の集合写真をポスターカレンダーにするなど、新施策を始める

令和 **04** 年

匠道場ポータル(社内ポータル)の運用開始

直近5年の有電の成長についても、 各部門担当者より語っていただきました！

健康経営の 進化について

M.Aさん



直近5年の変化

健康管理システム

「緑のお守り」を導入しました！

健康診断の結果をグラフ化し、推移を視覚的にわかりやすく表示するシステムです。さらに、そのデータを活用して管理栄養士による面談も実施。社長がモデルケースとして参加すると、専門家の助言により自己管理が安定し、**長年続いていた「要再検査項目」がゼロになる**という大きな成果が出ました。

この先の5年に向けて

体の健康だけでなく、 メンタルケアにも注力を

2024年からストレスチェックを開始し、対話を促進するプロジェクトを発足。人事考課面談を社長との一対一に変更して相談しやすい環境をつくっています。今後も社員が自信をもって活躍できる環境づくりを進める所存です！

財務分析面の 進化について

K.Sさん



直近5年の変化

デジタル化の進展

「Google Workspace」の導入で、データを一括管理できる仕組みを構築。**全社的な収支や原価率の把握がほぼリアルタイムで可能**になりました。スマートフォンから現場で情報を確認できるため、利便性も向上。今も試行錯誤の連続ですが、一つひとつ課題をクリアしながら活用を進めています。

この先の5年に向けて

利益確保と完全週休2日制！

今後は正確な利益管理に基づき、付加価値の高い仕事を選択できるようになるでしょう。目標は現場の負担を削減し、社員の休日数を増やすこと。蓄積した1年分のデータを活用して分析精度を高め、利益をしっかりと出しながら、より希望をもって安心して働ける環境づくりに努めます！

DXの 進化について

A.Dさん



直近5年の変化

DX認定企業へと進化

会社でのIPA資格取得など「意識改革」から着手し、2025年には「DX認定企業」を取得しました。また、「Google Workspace」の導入でスマートフォンから図面へのアクセスが可能になり、重い紙資料を携行するリスクや手間を解消。**今ではデジタルネイティブな若手の皆さんが新ツールを率先して使いこなし、会社全体を牽引**しています。

この先の5年に向けて

「現場のノウハウ」の伝承

いかに「現場のノウハウ」をデジタルツールを使って伝承するかがテーマ。現場は想定外の連続です。単にツールを使うだけでなく、自ら考え最適解を導き出す「考動力」を養ってほしいと思います。若手のメンバーが社外にも堂々と発言できる人材になるよう、全力でバトンを渡していきます。

受注案件の 進化について

Y.Sさん



直近5年の変化

年間1億円の売り上げ成長

直近5年は毎年約1億円の売り上げ増を継続。人脈を介して顧客と発注元の橋渡しを行うなど、顧客の事業拡大をバックアップ。**顧客の受注拡大を支援することで、結果として自社への発注量も増加する**という、独自の受注ルーティンを確立しました。

この先の5年に向けて注力したいこと

一括受注と連携で10億円へ！

次の5年で、売り上げ10億円規模への到達を見込んでいます。そのために、単に人手を出すだけの「便利屋」から脱し、案件を丸ごと担う「一括受注型」の割合を高め、営業的にも技術的にも自社の力を強化していきます。また、自社の人材育成プロジェクトを進めるとともに、外部パートナーとの連携も強化。信頼できる協力会社と施工力を補完し合うことで、大規模案件を完遂する体制を整え、当社の

深まる
絆

社員旅行に 参加して

広がる連携!

有電で年に1回行われている社員旅行。ここは、普段なかなか話せない仲間との絆を深める貴重な機会です。2025年の社員旅行は協力会社の皆さんも加わり、仕事では見られない意外な一面を見ることができ、交流が生まれました。

旅行の思い出

S.Sさん

ビンゴ大会で1等を当てたことが思い出となりました! Dさんと同時にビンゴだったのですが、じゃんけんに負けてしまい、先に選ぶことができませんでした。結果的には良かったのですが、少し悔しい気持ちです。

社員旅行に参加して感じたこと

仕事ももっと頑張ろうと思いました。



旅行の思い出

Y.Sさん

今回の旅行では美酒堪能のコースを選択しました。大好きなお酒をたくさん飲むことができ、宴会で楽しくお話しできたことが一番の思い出です。その後のカラオケで盛り上がって歌ったことも、とても良かったと思います。

社員旅行に参加して感じたこと

旅行を通して多くの方とより親密になれたと感じています。仕事でもこの関係が続くよう、頑張っていきたいと思いました。



旅行の思い出

K.Tさん

今回は2次会の後に、3次会で外出する方も半数くらいいました。しかしお店が休みなどで見つからず、必死に探しましたが、結局全員で入ることができるお店がないためバラバラに。その後、ホテル近くのコンビニで買ったカップ麺をシメのラーメンにして、4次会が始まっていました。

社員旅行に参加して感じたこと

今回旅行の幹事を務めました。皆さんの様子を見て、息抜きができていたように思います。しかし、客先・協力会社様との調整が大変で、全員参加に至らなかったことは残念でした。来年度は日時を早めに決め、全員参加できるようにしたいと思います。



旅行の思い出

H.Nさん

2日目のサンドブラスト体験が印象的でした。シールを貼って研磨材を吹き付け、シールの跡がそのまま模様になる表面加工をサンドブラストと呼びます。細かいシール作成が大変でしたが、仕上がりは満足のいくものができました。初日の宴会後、3次会が終わって旅館に戻ってから、酔っ払ったWさんを皆で介抱したことも印象に残っています(笑)そして、Nさんが僕の目の前でブービー賞をとったのですが、使わないと仰っていたので「買い取りますよ!」と一目散に交渉し、ゲットしました!

社員旅行に参加して感じたこと

毎年楽しみにしている旅行を次回も楽しめるよう、仕事にも一生懸命取り組みたいと思います。



旅行の思い出

M.Kさん

当日は、まるで50年前にタイムスリップしたような昔懐かしいバス旅行を楽しみました。最近では少なくなった企業の団体旅行ですが、40名ほどの社員と賑やかに過ごすことができ、大満足です。

社員旅行に参加して感じたこと

思い出づくりの機会を設けてくださった会社に、感謝申し上げます。



旅行の思い出

A.Dさん

協力会社の方に「今回の現場では若い社員がご迷惑をおかけしました」と話しかけると、笑いながら「お世話しましたよ」と冗談で返してくださったことが印象に残っています。まだ現場に慣れておらず機転を利かせづらい若手を、協力会社のベテランの方々が温かい目で育ててくれた様子が伝わってくる一言でした。社員旅行を通じて、風通しの良い関係となり、今後の仕事がよりやりやすくなった気がしています。

社員旅行に参加して感じたこと

担当業務や現場が異なる人とは、コミュニケーションを深める機会が限られています。社員旅行は、そんな社員間の親交を深めることができる貴重な機会でした。日頃お世話になっている協力会社の方にも参加していただき、普段の仕事でのやりとりとは違う、非常に人間的な交流を持つことができました。



有電の

社員のホンネに社長がリアクション!!

GOOD! & MOTTO! を考えよう

「ここが良いよね!」という有電ならではの魅力。そして、「もっとこうしたほうが良い!」という改善点。その2つは社員が一番に理解しているはず。そこで、社員の皆さんから普段肌で感じている「GOOD」と「MOTTO」を集め、有村社長へお届けしました。社員のどのような声にも社長が答えてくれる、そんな環境が有電にはあります。

ここが良いところ!!

有電の GOOD! ポイント

代表取締役社長

ありむら ともやす

有村 朋泰さん



社員からのGOODな声1

ピンチのときの助け合い、チームワークがすごいと思います!

皆さんの「何とかして現場を終わらせる!」という責任感に深く感謝です。私が社長になる前の話ですが、とある現場がピンチだと聞きつけ、夜にみんな集合してヘルプへ向かったことがありました。あのときも「何とかしなければ」という責任感のもと、自然発生的に団結していたと思います。当社は少数精鋭のため、どうしても現場単位の負荷が高くなってしまいがち。しかし、だからこそ綿密な情報共有に努め、「こそぞ」というときに駆けつけるフットワークが生まれるのだと思います。



社員からのGOODな声2

人材育成にリソースを割ける余力のない同業他社が多い中、当社は教育にとっても力を入れていると感じます!

仕事の性質上、入社後すぐに「現場に行ってください」と言われても、わからないことだらけでしょう。私自身、新人の頃に突然現場に放り出され、右も左もわからずに困った経験があります。ましてや、働き方が見直されている昨今。まずは必要な知識や技術の一つひとつ身につけ、少しずつ現場で発揮してもらいたいと考えています。きっと新入社員の定着にもつながるでしょう。



社員からのGOODな声3

主婦・母親として勤務する上で、働きやすい環境と待遇に感謝しています!

こちらこそ、いつも仕事を頑張ってくれてありがとうございます。ご家庭との両立は簡単なことではないと思いますが、そういった中でも力を発揮していただくことに心から感謝しています。私も子どもの学校行事には積極的に参加するようにしていますが、社員の皆さんにも、ご家族との時間を大切にしてほしいと思っています。お子さんの急な発熱や学校行事など、予期せぬお休みや早退が必要な場面もあるでしょう。そうした際に、お互いに気兼ねなくサポートし合える風土こそが、チームの総合力を高めると信じています。これからも皆さんが安心して働ける環境づくりに努めていきます。





!! 伸びしろアリ!!

有電の MOTTO! ポイント



社員からのMOTTOな声1

ちょっとした言葉足らずや配慮不足が、社員同士の行き違いの原因になっていると感ずることがあります。誰もが扱えるコミュニケーションツールなどがあれば、もっと助け合えるようになるかもしれなかつた思いました。

貴重なご意見ありがとうございます。私も、コミュニケーションにおけるすれ違ひは、組織にとって大きな課題だと認識しています。一人ひとりが少し意識を変えるだけで、チームの雰囲気は大きく変わるはずです。例えば、指示を出す側は「なぜこの作業が必要か」という背景を伝え、受ける側は疑問点があれば遠慮なく確認する。そんな相互理解の文化を、皆でつくっていきたくてすね。その上で、皆さんのコミュニケーションを円滑にするためのツール導入なども、積極的に検討していきましょ。



社員からのMOTTOな声2

管理部と工事が、お互いの作業内容への理解を深めればもっと良くなると思っています。

「管理部が管理部としての仕事に集中できるようになること」が理想であり、本来の目的なのですが、ゴールまでは未だ遠い道のりです。現状、管理部も管理部で、現場応援の仕事で手一杯。マンパワー不足という実情もあるため、進捗がやや遅れています。

まずは社内報なども活用し、管理部の立ち位置や役割などを明確に。そして管理部メンバーも率先して仕事を覚え、必要な指示やマネジメントを行えるような体制を整備していきましょ。着実に整えていくので、ぜひ期待してください!



社員からのMOTTOな声3

大きな声であいさつや声かけをする人が少ないと感ずます。立場や年齢に関わらず、みんなが声をかけ合う習慣ができれば、もっと話しやすい雰囲気になるのでは?

まったくもっておっしゃる通りですね。挨拶はコミュニケーションの基本であり、気持ちよく一日をスタートさせるための大切なスイッチだと思ひます。役職や年齢、社歴に関係なく、お互いに元気な声で挨拶を交わす。そんな当たり前なのが、部署の垣根を越えた連携や、話しやすい雰囲気づくりに繋がっていくはずです。私自身も、これまで以上に大きな声で挨拶することを心がけますので、ぜひ皆さんも今日から一緒に実践していきましょ。



有電は地域とのつながりも大切にしています。活動の一貫で毎年、職場体験を通して地元の中学生や高校生が自身の未来を考えるきっかけの場を提供しているのです。今回の紙面ではその様子を写真と共にお届けします！



「きたごやハートフェス」準備見学者の高校生から実際に見学してみた生の声をいただきました！

電気工事の現場を実際に目にして

人の生活や暮らしを支え、地域に貢献できる仕事だと感じました。また、地域イベントの施工などで地元の方たちと間接的に関わり、人々の役に立てるといふ点も印象的でした。

有電社員の印象

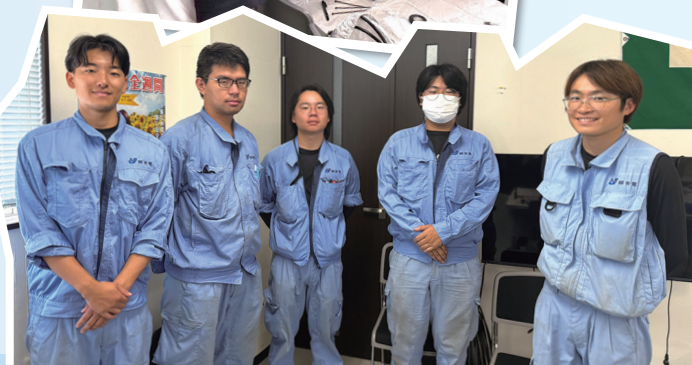
社員の方の丁寧な説明を聞き、仕事に対する熱量が伝わってきました。社員一人ひとりが会社に誇りを持って業務に従事されている、という印象を受けました。

参加前後でのイメージの変化

当初は、張り詰めた雰囲気の中で作業されている印象を抱いていました。しかし、休憩時に談笑してリラックスされている姿を拝見し、働きやすい職場なのだなと感じました。



「中学生職場体験」の様子







株式会社有電

【本社】〒481-0006
愛知県北名古屋市熊之庄石原95番地

【豊山営業所】〒480-0202
愛知県西春日井郡豊山町豊場宇野田158第一秋善ビル306号

TEL : 0568-25-6260 FAX : 0568-25-6286

有電の
ホームページは
こちらから



高卒の皆さん向け
ショート動画は
こちらから



大卒の皆さん向け
ショート動画は
こちらから